

Q5 複数の内容項目と関連付けて扱う指導とはどのようなものでしょうか。



学習指導要領解説に「複数の内容項目を関連付けて扱う指導」の説明があります。「道徳科のテーマ」を設け、複数の内容項目と関連付けるところがポイントです。あくまでも指導方法の一つであり教育力の最大化を図ることを目的としています。

<ユニット学習の捉え>

1. あくまでも、指導方法の一つ。(単元的な捉え方)

ユニットを訳すと単元。単元とは、ある主題を中心に行う学習活動の一まとまりであるので道徳で言うところの大きなテーマと捉えます。

教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要として「道徳科のテーマ」を設け、複数の内容項目と関連付けるところがポイントです。

\* (例)「自然とともに生きていく」や「よりよい学校生活の充実」など

2. ユニットにする良さ

テーマの設定をし、1時間の道徳科の授業で終始するのではなく複数の内容項目と関連付けて複数時間で構成されます。そのため、前時に学んだことがより生かされるよさ、テーマについてより深く考えることができるよさなど、様々なメリットがあります。

3. 実践事例

事例(1) 「友達とより分かり合うために」 実施学年：4年

「友達とより分かり合うために」という大きなくくりで授業を行いました。1次では助け合いや信頼、友情をはぐくむことの大切さについて物語教材を通して考えさせました。2次ではより深まりのある友情関係を築くために自分の思いを相手に伝えて相互理解を図り、謙虚で広い心をもつことが大切であるということについて話し合いました。

**特別活動** 生活目標「友達を大切にしよう」から実生活を振り返り、学習のテーマをつくる

テーマ 友達とより分かり合うために

1次 教材名：泣いた赤おに 内容項目：友情信頼

青おにの自分に対する思いに気付いた赤鬼の姿を通して、友達を大切にすることについて考えさせ、友だちとよりよい関係を気づき、互いに理解し、信頼し合おうとする心情を養う。

2次 教材名 つまらなかつた 内容項目：相互理解・寛容

何気ない言葉をめぐってすれ違う信二とさとしの姿を通して、互いに分かり合うために大切なことについて考えさせ、相手を理解するとともに、相手からの理解を得られるように伝えようとする実践意欲や態度を育てる。

**特別活動** テーマについて考えたことを振り返る

2つの教材を通して「友達とより分かり合うために」について考え、これから友達とどのように過ごしていきたいか考える。

## 事例（２） 「自然とともに生きる」 実施学年：６年

「自然とともに生きていくとは」という大きなくくりで授業を行いました。

１次では、生命の誕生から死に至るまでの過程を食事の視点で考えます。ここでは、「人は生きるために様々な生き物の命をいただいている。一方、人間は自然環境のためにどんなことを行っているのか」という課題をもち２次に向かうようにしました。

前次の学習が次の学習へつながり、課題を持ち続けながら道徳科で考えを深めることになります。

これらの学習を通して、命をいただくことの重みや、かけがえのない命を頂いていることを意識しながら、自分（人間）と自然の向き合い方を考え、生活していこうとする実践意欲と態度を育てることにつながっていきます。

### テーマ 自然と共に生きていくとは

１次 教材名「命の旅」（生命の尊さ）

◎命が命をつなぐとはどういうことだろう

人は生きるために様々な生き物の命をいただいている。

\*人間と自然とのつながりを意識する

２次 教材名「あまものゆりかご」（自然愛護）

◎自然と共にいきっていくために大切なことは何だろう。

人間も自然の中で生かされている。だからこそ自然環境を大切にします。

・自然環境を保ち続ける、自然環境をさらによりよくする

\*自然と自分との関わりの中で、何が大切で何ができるかを考えることを通して、実践意欲と態度を育てる

テーマを設定する時は、年間指導計画や別様などを参考にすると良いです。学校行事や生活目標、他教科との関連など時期に応じてテーマを考え、授業を作っていくと効果的です。これも、カリキュラム・マネジメントの１つですね！



## 4. 学習指導要領解説より

### ○複数の内容項目と関連付けて扱う指導

「現代的な課題の扱い」には、「道徳科の内容で扱う道徳的諸価値は現代社会の様々な課題に直接関わっている。児童には、発達の段階に応じて現代的な課題を身近な問題と結びつけて自分との関わりで考えられるようにすることが求められる。」と記載されています。これらを実現する手立ての一つに

「複数の内容項目と関連付けて扱う指導」があり、児童の多様な考え方を引き出せるように工夫することが考えられます。

